

| | | | |
|--------------|-------------------------------------|---|--|
| 研修名 | 令和6年度 ビギナーズ研修会 | 実施日時 | 令和6年7月31日(水) 受付13:00～ 研修13:10～16:15 |
| 会場 | 春日部市民文化会館 大会議室 | 参加者数 | ビギナーズ研修対象者 34名 |
| 開会行事 会長挨拶 | 木村 公一 会長 | <ul style="list-style-type: none"> ・1年次の参加者は事務職員の仕事は多岐にわたる。学校運営を支える重要な役割を担っている。仕事内容は学校によって様々。業務を進めるにあたっての心持について、考えていく機会として議論してほしい。 ・2・3年次の参加者はこれまでの経験からの様々な考え方を出して、課題を取り巻いてまとめていってほしい。 ・この研修の話し合いを通して、学校事務の役割と責任を考え、必要となる知識やスキルを習得して、学校というチームの一員として円滑に業務を遂行できるように積極的に学んでほしい。 ・東部事務研では、学校事務職員研修会・研究大会などの活動も行っている。事務職員同士の交流を図り、互いに学び合い成長していく場として参加してほしい。 | |
| 事務研活動について | 内藤 純彦 理事長 | <p>★活動概要について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東部事務研は、埼玉県東部地区すべての小中学校が加入して組織している団体である。 ・学校事務職員及び共同学校事務室のなすべき役割の明確化・共有化を目指し、信頼される職・存在感がある職・社会により貢献できる職の確立を目標に活動を行っている。 ・各種研修会・大会の開催、広報とうぶ・とうぶの学校事務等の広報紙の発行、会員専用ホームページ「J-BOX」の運営など、職務に役立つ有意義なことを行っている。 <p>★東部事務研とのかかわり方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理事への積極的な立候補をお願いしたい。共同実施では得ることのできない経験ができるかと思う。 ・以前は困ったことの相談や分からぬことの共有等の役割を担っていたが、共同実施が広がりその役割が移行している。東部事務研の必要性や意義が問われている。参加率の低下や理事のなり手不足といった課題を抱えている。東部事務研では、市・町や先輩・後輩を超えた交流ができる。人とのつながりを築くことができる。 | |
| 講義 | 東部教育事務所 総務・人事・学事担当主任管理主任 小澤友紀雄 様 | <p>夏休みは心身ともにリフレッシュし、事務職員としてのキャリアアップ・専門職としての自己研鑽をする時間を過ごしてほしい。</p> <p>今回の研修会に参加している人は、キャリアはまだ浅いと思われる。1年間で行う仕事について、意味合いや留意点・効率よくこなすための手順など、共同実施の先輩や管理職に聞いてみたりすることがキャリアアップになる。</p> <p>仕事をするうえで、基本的には校長・教頭・養護教諭と同じように一人職である。「孤独を感じていませんか?」職としては一人職であっても、職員室の教員や管理職・市町の事務職員や用務員などと職場での良い人間関係を築くことが、仕事をするうえで気持ちよく・楽しく仕事をするうえで大事になってくる。</p> <p>★気持ちよく仕事をする上でのコツ</p> <p>○いつも笑顔で学校の職員と接する</p> <p>いつも笑顔で礼儀正しい言葉遣いや態度の事務職員は、みんなから好かれ信頼され頼れる人物であることが多い。仕事はできても、話しかけづらい表情をしている人は、その人の良さを分かってもらうまで、近寄りがたいキャラクターとして認識されてしまうこともある。表面的なところで、仕事に差をつけることはいけないことではあるが、一つの要素としていつも笑顔でいると良い。但し、体調悪い時は体調が悪いとアピールすることも大事。</p> <p>○判断に迷ったら、管理職や共同実施の先輩・東部地区の仲間たちに相談する東部管内の多くの学校で決裁者は校長である。「自分はこう考えているがこうしていいか」と具申する。自分の意見や事情を伝える形で管理職に相談する。そうすれば、管理職に相談したうえでの仕事として安心できる。</p> <p>○教職員の一人として、みんなで協力して学校の教育活動を行っていく線引きは難しいが、自分の仕事ではないと線を引いて、教育活動に協力しない等はよくない。事務職員は学校の一員である。行事や職員作業にみんなで協力</p> | |

| | | |
|--------------|--|--|
| | | <p>することや日々の様々なことに協力して取り組むこと、職場での人間関係がよりよくなっていく。結果として仕事がしやすくなることにつながる。</p> <p>★知っていてほしいこと</p> <p>ルーティンの仕事については、新任事務職員以外はつかんできているだろう。学校は生身の人間とかかわる仕事であるから、レアな事案が発生して対処しなくてはならないことも少なくはない。事務職員がしなければならないことでもレアケースは多々ある。その時に大切なのは、横のネットワークである。事務職員同士のネットワークを活用していってほしい。聞いたら実はすぐに解決することかもしれない。また、来年度以降、新しい事務職員が来たときは積極的に声をかけてほしい。</p> <p>★学校管理訪問について</p> <p>学校の管理・運営面の点検を行っている。諸表簿の点検では、時間外勤務の状況のチェックも行っている。「時間外勤務をきちんと申請していますか？」教員は4%の教職調整額がついているが、事務職員にはついていない。決してただ働きをすることがないように、事前に時間外勤務の許可を取ってから勤務してほしい。控えめにならず、しっかり申請するように。</p> <p>36 協定に基づいて、時間外勤務の申請をしている事務職員はしっかりとしていて安心して任せられると思う。</p> <p>★働き方改革について</p> <p>「6月はどれくらい時間外勤務時間でしたか？45時間未満でしたか？」昨今、学校の教職員の働き方改革について呼ばれている。数年前までは月80時間を超えないようにしようであったが、今では、月45時間年間360時間という制限に変わっている。月45時間は20日働くとしたら毎日2時間くらいの残業時間である。そうはいっても、忙しい時期がある。そういう月は管理職によく説明してほしい。こんな仕事をしなくてはならないから連日残業している等。新任教頭や新任校長は事務職員がどんな仕事をしているかわからないことがある。事務職員から、こんな仕事をしている・こんな予算で動いている等、報告してほしい。</p> <p>各市町の校務支援システムの波に上手に乗れるようにすることも大事である。また、仕事に対する意識を変えていくことが大切。計画的に、軽重をつけて仕事にあたる。驚くような昔ながらの仕事の仕方があるかもしれない。年齢や職位に限らず、新しい視線で見てもらい、感じたこと・気づいたことを管理職に伝えてほしい。教員だけの働き方改革や事務職員だけの働き方改革はあり得ない。学校の教職員すべてが協力し合っていかなくてはならない。</p> |
| 本日の研修の意義について | 中島 麻子 副会長 | <p>前半では、仕事を進めていくうえで課題を感じることが多いと思われる3つの業務について話し合う。後半は個人の困り感のあることについて話し合う。班には1年目から3年目の人がいる。話し合いでは、共感できること・自分には無理かと思うことがあるとは思うが、参考にできるものがあれば、取り入れてみようという気持ちで話し合いに耳を傾けてほしい。他の人の付箋を見て、こんなこともやっているんだというような仕事もあると思う。他の学校の業務を知ることで市や町、学校ごとに違うといった学校事務職員としての仕事の特性を知ることができると思う。今回のグループワークには正解はない。グループごとにまとめた意見を共有し、みんなで納得解や最適解を導き出していくことが大事である。学校で様々な人とともに働いている。1人職ではあるが1人ではない。組織として連携し学校運営を担っていくことも重要な役割として求められている。相手の立場や意見を尊重しながら自分の仕事をよりよく進めいくためのヒントを持ち帰ってほしい。</p> <p>守破離。基礎基本を踏まえながら発展させ、学校事務職員として新しいものを作り出していってほしい。</p> |
| グループ別討議 | <p>※6 グループに分かれ ①提示された3つの課題について討議 ②それぞれ考えてきた困っていることについて討議 ※討議終了後すべてのシートを見て回る</p> | ※各グループ記録用紙参照 |